令和６年度

入間市立小・中学校

人権作文集

入間市教育委員会

人権作文集

もくじ

ひろがったらいいなみんなのやさしさ（小2）……1
目のふじゆうな人に出あったら（小3）……2
いっしょに遊ぼうよ（小4）……3
車いす体験から学んだこと（小5）……4
障がいがあっても（小6）……5
人間の考え方（中1）……6
だれもが生きやすい社会へ（中2）……8
私にできること、私がすべきこと（中3）……10

ひろがったらいいなみんなのやさしさ

小学２年生

　ぼくのおばあちゃんは、いつもぼくのことをほめてくれます。とおくにすんでいてなかなかあえないので、よくテレビでんわをしています。ぼくがなわとびをできるようになったことや、ならいごとのスイミングでごうかくしたことをほうこくすると、大きな声ではくしゅしながらじぶんのことのようによろこんでくれます。夕はんをたべながらでんわするときは、たべているしせいやおちゃわんをもっていることもほめてくれます。

　どんなことでも、おばあちゃんがほめてくれると、じしんになります。またがんばろうというやる気も出ます。やさしい気もちにもなります。そして、みんなにやさしくしたくなります。

　ぼくのクラスでは、かえりのかいに、その日だれがなにをがんばっていたかはっぴょうするキラキラタイムがあります。じぶんのことをはっぴょうしてもらえると、じぶんがいっしょうけんめいしたことをともだちが気づいてくれたとわかり、うれしくなります。だからぼくもみんなのいいところをたくさん見つけて、手をあげるようにしたいです。

　いつもおばあちゃんやおともだちがぼくをやさしい気もちにしてくれるように、ぼくもまわりの人をやさしい気もちにしたいです。

　ぼくのまわりにやさしい気もちがあふれて、みんながたのしくすごせるといいなとおもいます。

目のふじゆうな人に出あったら

小学３年生

　わたしは、おばあちゃんと電車にのったときに目のふじゆうな人に出会いました。

　その人は白いぼうをもって、点字ブロックの上で歩いていました。わたしが思っていたことはえきのホームをあるいていたのであぶないと思いました。すると、わたしのとなりにいた、お兄さんが目のふじゆうなだんせいにこえをかけました。お兄さんは、目のふじゆうな人の手をもっていっしょに電車にのりました。わたしがその様子を見て、そのお兄さんは目のふじゆうな人に親切にしてあげてやさしいなと思いました。そのお兄さんは、だんせいをゆうせんせきにのせてあげていました。お兄さんは電車の中でどこでおりますか。ときき、池ぶくろでおりることがわかった。お兄さんは、池ぶくろについたら目のふじゆうな人の手をもっておりました。その様子を見て、お兄さんは、目のふじゆうな人に、そんなやさしいし、自分のやることがありそうだったし、目のふじゆうな人をたすけている様子がとてもかっこよかったです。

　目のふじゆうな人に切ぷもかってあげていたので自分のお金をはらってあげていることの様子を見てかっこいいなーと思いました。

　わたしもあのお兄さんのように目のふじゆうな人いがいにも耳が聞こえない人とか体がふじゆうな人やいろいろなことをしてあげたいです。たとえば自転車がたおれてたりしたらいっしょになおしたり、電車をいっしょにのってあげたりしたいです。

いっしょに遊ぼうよ

小学４年生

　私が初めて学童に行った日私は、なれなくて、全然楽しいと思えませんでした。でも、
「いっしょに遊ぼうよ。」
と話しかけてくれた子がいて、遊んでいても全く話せなかった。それでもいっしょに遊んでくれた。たくさんたくさん遊んでくれた。
　私は、この子とても優しいなと思いました。そして、毎日その子と遊ぶのが楽しみになってきました。そして学校が始まり、学校でもいっしょに遊び、とても楽しかったです。
　そして、３年生の春、新しい１年生が入って来ました。私は、新しい１年生に話しかけるかまよいました。でも
「いっしょに遊ぼうよ。」
この言葉をかけられて、とてもうれしかったことを思いだしました。そして、
「いっしょに遊ぼうよ。」
１年生たちに話しかけられました。１年生も、
「いいよ。」
と、うれしそうな顔で言ってくれました。
それから、その話しかけた２人と毎日遊びました。親にも、
「もう２人も１年生の友達できたよ。」
と自まんしました。
　この声をかけられたのはあの子のおかげ、あの子が話しかけてくれて、本当に良かったと思いました。

車いす体験から学んだこと

小学５年生

ぼくは、国語辞典で「人権」を引いてみました。するとそこには、「人が生まれながらに持っている自由、平等などの権利」と書かれていました。

人権について考えた時、４年生の時に学習した車いす体験を思い出しました。

車いす体験で、ぼくは、しょう降口から体育館へ行きました。その時は後ろから友達に押してもらいましたが、車いす体験をした後、もし自分が車いす生活になったら何ができないのかを考えてみました。

ぼくの家族はみんな２階でねています。車いすになると朝起きて１階に降りてくることができなくなります。その後、着替えができなかったり、学校に行くときに荷物を背負えなかったりしてしまいます。また、学校に着いてからも、階段をのぼって教室に行けなかったり、狭い通路を通れなかったりなどたくさんのことが不自由になってしまいます。ほかにも自転車に乗ることや習いごとなどもできなくなってしまいます。

このように、車いすでの生活について考えてみると、身の回りには不自由なことがたくさんあることが分かりました。

しかし、ぼくたちの周りには、車いすを使って生活している人がたくさんいます。車いすを使って生活している人たちは、ふだんから不自由な生活をしているのだと思います。そこで、ぼくは車いす体験で学んだことを活かして、これから生活していきたいと思います。

例えば、道の段差をこえられず困っている車いすの人や、こんざつした電車の中で困ってしまっている車いすの人などに、

「何かできることはありますか。」

と声をかけることなどです。困っている車いすの人がいたら、積極的に声をかけて助けることができるようにしていきたいです。また、車いすの人のほかにも不自由な生活を送っている人もいると思います。そんな人たちにも声をかけ助けることができるようにしていきたいです。

障がいがあっても

小学６年生

　私は障がいをもっています。私は骨の病気で背が小さく、移動するときには家族と手をつないで行動します。視力もあまりよくないのでメガネをかけることも必要です。背骨や足も弱いので、夜や運動するときにそう具をしたり、少し遠くへ行く時は車いすを使ったりします。背が小さいことに対して幼い子やお年寄りに傷つく言葉を言われたり、病気で視力が悪くてメガネをかけているのに

「小さいのにゲームのしすぎでメガネをかけていてかわいそう。」

と言われたりして、いやな思いをすることも少なくありません。でも、私の周りの人たちは私のことを理解してくれて、協力したり、助けてくれたりします。

　みなさんには、好きなことやあきらめたくないことはありますか。私は障がいをもっていますが、夢中になっていて、あきらめたくないことがあります。それは音楽です。私はピアノとバイオリンをやっています。音を奏でることがすごく楽しくて大好きです。ピアノとバイオリンは５さいからやっています。私は背が小さいので、ピアノの演奏をするために自分専用のペダルをつくってもらいました。私が音楽を楽しむことができるように、ピアノの先生やバイオリンの先生がいろいろな工夫をしてくれます。こういった工夫のおかげで健常者と同じコンクールに出て賞をもらうことができました。今は多くの支えで好きな音楽に全力を注ぐことができています。

　このような経験から、いやなことがあったとしても、あきらめずにがんばれば夢が叶うことを知りました。障がいがあっても工夫をしたり、全力で楽しんでいたりすると、結果を出せるということが分かりました。

　大変なこともあるけどこれからも周りの人に感謝して前を向いてがんばっていきます。

人間の考え方

中学１年生

　みなさんは同性愛者についてどう思いますか。また同性愛者と聞くとどのようなことを思いうかべますか。

　私は別にいいと思うし、へんでもなくふつうの事だと思ってます。ですが世の中には、同性愛者についてあまり良く思わない人がたくさん居ます。例えば、へんだったり気持ち悪いや信じられないなどと思っている人もたくさん居ると思います。日本でも同性愛者についてあまり良く思われていないんじゃないでしょうか。ですが私のようにふつうの事やへんだと思わない人も居ると思います。

　そこで私が経験した話を書きます。私は友達から、友達と同じ性の子を好きになってしまったと言われた。と友達から聞きました。その友達はへんだとか気持ち悪いなどと私に言ってきました。その子は勇気を出してその友達に言ったんじゃないのかなと私は思いました。勇気を出してその友達にへんだとか気持ち悪いなどと言われてしまって非常に悲しいんじゃないかと思ったのです。勇気を出して言ったのに、悪い言葉を言われてしまったのです。でもふつうに考えればおかしいやへんと思うのもおかしくはないのかなとも思いました。今までの日本は同性での恋愛は考えられなかったし、それが常識になっていたのは本当のことです。だからおかしいと思う人がいてもおかしくないのです。でもその常識にとらわれすぎてはいけません。今ではジェンダーレスや男女平等などのことを当たり前にしていこうとしているのではないでしょうか。なので、おかしいなどのへんけんは言わない方がいいと思うのです。その言葉を言ってしまったら、その人が傷つくかもしれない。またその考えがなくなってしまうと思います。せっかく新しい常識や新しい日本を作っていく若者の考えを大人の人や考え方が古い人たちにつぶされないといけないのでしょうか。アメリカみたいに、同性が恋愛してもおかしくない。そんな日本にしていきたいのです。

続く

また、同性愛者はふつうなどと常識を変えた社会にしていきたいです。この世には、たくさんの考え方、色んな人がいるので、それを認め合える社会を作っていきたいのです。この世には、色んな人たちが居ます。もっと自由な考え方にしていきたいのです。私たち中学生でも色んな考え方をしている人がいます。そのためには、自分の考えを他の人に伝え合ったり、その考えを認めてあげることを大切にしたいです。

また、その考えを大人にも知ってほしいのです。子供だけではどうにもなりません。大人の人が必ず必要なのです。なので、大人の人の考え方を変えることが必要です。今までの古い考えは捨てて、今の考えを取り入れてほしいのです。今を生きているのだから、新しい考え方は必要です。なので、今を作っていく私たちが今を進化させていかないといけません。

人間だから、まちがえることは誰だってあります。なのでそのまちがいを決してバカにしてはいけません。私達がバカにしたら、その子の考えや性格は曲がってしまいます。なのでバカにするなどの行動はしないで教え合う、認め合うなどの優しい考えを広めていきたいのです。

だれもが生きやすい社会へ

中学２年生

　世界にはどんなに「普通」に生まれたくても障がいがある状態で生まれてしまう人がいます。自分の出生を選ぶことができない中で、誰もが幸せになる権利があります。

　私は障がいのある人に向かって「普通じゃない」という言葉をかけている人がいてはっとしました。そもそも普通って何だろうか？みんなと違う体をしていたり、上手に話せなかったら普通ではないのだろうか。私は障がいのある人が同じ人間なのに、「普通」ではなく差別される世の中をなくしたいです。

　そんな思いをもちはじめたのは、障がいのある母の姉に出会ったからです。母の姉は頭に障がいがあり、勉強ができなかったり上手に話すことができません。最初はそんな母の姉が怖くて避けていました。しかし、後に母から母の姉は障がいがありみんなと同じ生活を送ることが難しいこと、さらに小さい頃から障がいがあるということでいじめを受けていたことを知りました。いじめはだんだんとひどくなり、上ばきに画びょうを入れられたり、大声で悪口を言われたりすることが多くなってしまったそうです。私はその話を聞いて心が痛みましたが、同時に私も母の姉から見た目や行動だけで母の姉から避けていて、いじめにつながることをしてしまったことに気づきました。そして、もし自分が生まれもった変えられないものが原因で人から避けられるようになったらどんな思いになるかと考えると居てもたっても居られず母の姉のところへ急ぎました。最初はどんなことを話せばよいか迷いましたが、好きな食べ物や、好きなアニメなど簡単な話をしていくうちに怖いという偏見がなくなり、一緒にいることが楽しくなりました。もちろん、一緒に話していて、何を話しているか分からないときもあります。でも一生懸命に私と話そうとしてくれている姿に心が打たれました。私は、人を見た目や行動だ

続く

けで判断するのではなく、相手のことをしっかりと知る大切さに気づきました。

ある日、母の姉と仲良くなってきた頃一緒にショッピングモールに行きました。話していくうちに母の姉は物をつくることが好きだと知ったので材料を探していたときのことです。母の姉がとぎれとぎれでも頑張ってニコニコと私と話している会話を聞いたからなのかとなりの人が逃げるように去っていきました。私はそんな対応に胸が痛みました。確かにしゃべり方はみんなよりも上手ではないかもしれない。けれど自分を受け入れて苦労しながらも頑張って話しています。きちんとそのことを知って見た目だけで判断してほしくないと心から思いました。あなたの発言や行動一つで傷ついてしまうことがあることを知っておいてほしいです。

世界にはいろいろな障がいがある人が沢山います。障がいのある人も幸せになる権利があります。みんなが幸せになるには、どんな障がいをもっていてどんな助けが必要なのかを理解する必要があります。最初は私みたいに怖くて避けてしまったり、どんな声かけをしたら良いか分からなかったりと勇気が出せず行動に移せないかもしれません。そんな時は一言「おはようございます」「こんにちは」と声をかけてみてください。そんな小さなことからでも相手のことを知ることができるはずです。おたがいの違いを認め合ってだれもが生きやすい社会をつくっていきたいです。

私にできること、私がすべきこと

中学３年生

　LGBTQ。最近よく耳にするようになった言葉だ。認知度が上がり、社会的には認められるようになってきて、生活の中にも取り入れられ始めている。でも、一人一人の意識はどうか。自分の周りにいないから。自分には関係ないから。そんな理由で、目を背けている人も多くいるのではないか。同性の人が好き。同性も異性も好き。たったそれだけで差別をされて、辛い思いをしている人がいる。自分も居場所がなくなってしまうかもしれない、という思いから、本当の自分を隠して生活している人がいる。気づいていないだけで、私やあなたの周りにも、性別に悩む人がいるのかもしれない。だから、関係ない人なんていないのだ。今、私にできることは、あるのだろうか。今、私がすべきことは、なんだろうか。

　自分では差別をしている自覚はなくても、無意識のうちに誰かを傷つけてしまっているかもしれない。女子は赤で、男子は青、スカートは女性が履くもの。女性らしく。男らしく。日常で使われるそんな一言が、一人の人の心に引っかかってしまうこともある。その積み重ねで、最悪の決断に至ってしまう人がいる。日本では、１日に3,280人もの人が亡くなっている。そのうち、自殺で亡くなるのは87人で、１日に生まれる人の数は2,935人。新しい命の誕生を笑顔で祝う多くの人たちの裏で、その命を自ら断っている人がいる。日本財団によると、2021年の調査では、15～19歳の32%が、本気で自殺しようと思ったことがあるという。その理由はさまざまだが、いじめや人間関係の悩みを抱えていた人も少なくないそうだ。誰かがなんとなく発したセリフで、苦しむ人がいる。人の言葉には、それくらい大きなパワーがあるのだと思う。その一方で、友達や家族などに話を聞いてもらったことで、自殺を思いとどまることができたと話す人もいる。誰かの言葉で「死にたい」と思ってしまう人がいるにも関わらず、誰かとの会話に助けられた人もいる。

続く

言葉は時に凶器となるが、人に手を差しのべる光にもなりうる。だからどうか一人でも多くの人に、大きなパワーをうまく使ってほしい。そうすれば、人を幸せにすることだって、できてしまうのではないかと思う。特別な言葉じゃなくてもいい。例えば「ありがとう」。私はこの言葉が大好きだ。そのたった一言で自分がやったことが報われた気がして、嬉しい気持ちになる。これからも頑張ろう、とやる気が出てくることだってある。だから、ちょっとしたことでも、誰にでも、積極的に感謝の気持ちを伝えるようにしている。誰かの力になることを願って、これからもこの言葉を届けたい。

　好きな食べ物、色、スポーツ、教科。様々な場面で聞いたり、答えたりすることだろう。「好きな性別」と何が違うのか。人によって異なるのが当たり前で、おかしいものなんてない。みんながそんな考えを持つことができれば、好きな食べ物や色と同じくらい、性別について言いやすくなると思う。近いうちに、そんな世界になってほしい。

　「人は、異性を好きになる」。差別やいじめが起こる原因は、無意識のうちに植え付けられた、「思いこみ」にあると思う。世界には何十億人もの人がいるのだから、一人一人違うに決まっている。LGBTQのことだけではない。得意なことも、苦手なことも、好きなものも、嫌いなものも。全部人それぞれで、同じ人なんていないから、おもしろい。それに気づいてほしい。辛い思いをする人が増える前に。誰かの心に傷をつけてしまう前に。人は、人を元気づけたり、人に勇気を与えたりすることだって、できるのだから。

　今、私がすべきこと。考えてみたが、私にはよく分からない。でも、できることはたくさんある。自分の知らないところで苦しんでいる人がいることを知ること。言葉のパワーをうまく使いながら、たくさんの人と話をすること。人によって、考え方や価値観が異なることを理解すること。少しずつでも「思いこみ」をなくすこと。それは簡単なことではないかもしれないけど、絶対に不可能なことじゃない。どんなに大きなプロジェクトだって一人の人から始まっているんだ。私の思いや声が大きくなっていくと信じて、私は私が思う「正しい」を、全うしていく。

令和6年度　入間市立小・中学校　人権作文集
発行　入間市人権教育推進協議会　入間市教育委員会社会教育課
〒358-8511　入間市豊岡1-16-1　☎04-2964-1111